

令和6年度 第2回 福岡市環境審議会

第四次計画の方向性(案)について

令和6年10月21日

福岡市環境局

1. 計画改定のポイント(R6.5.20環境審議会資料より)
2. 分野別計画等の統合
3. 計画の構成及び施策体系
4. めざすまちの姿

1. 計画改定のポイント(R6.5.20環境審議会資料より)
2. 分野別計画等の統合
3. 計画の構成及び施策体系
4. めざすまちの姿

1. 計画改定のポイント（R6.5.20 環境審議会資料より）

○「脱炭素(CN)/循環経済(CE)/生物多様性(NP)の統合的推進」の視点

- ✓ 気候変動や生物多様性の損失といった環境問題は個々に起こっているのではなく相互に影響しあっており、解決に向けた対策も影響しあう
- ✓ 各分野における取組について、他分野へのトレードオフを回避・最小化し、シナジーを得られるよう、統合的に進めていく必要がある
- ✓ 加えて環境監視(大気・水質・土壌・騒音等の監視)も、市民生活や企業活動の基盤に関わる、市民等の身近な関心事項であり、引き続き必要な視点である

○「行動変容」「広報啓発」の視点

- ✓ 「2040年度 温室効果ガス排出量実質ゼロ」チャレンジ、「2030年度 温室効果ガス排出量50%削減」に向けて、時間的猶予はない
- ✓ 市民や事業者のライフスタイル・ビジネススタイルの変容が重要
- ✓ 補助金だけでは効果が限定的であるため、広報や啓発施策と組み合わせを行いながら、意識・行動の変容を進めていく必要がある

○「事業者連携」の視点

- ✓ 環境の保全と社会・経済の発展が統合していくにつれて、新たな技術・サービスが登場しており、社会実装を進めていく必要がある
- ✓ また、行政だけでは解決が困難な課題や、民間の力を用いた方が効果的な課題が多数存在している

○「計画統合」の視点

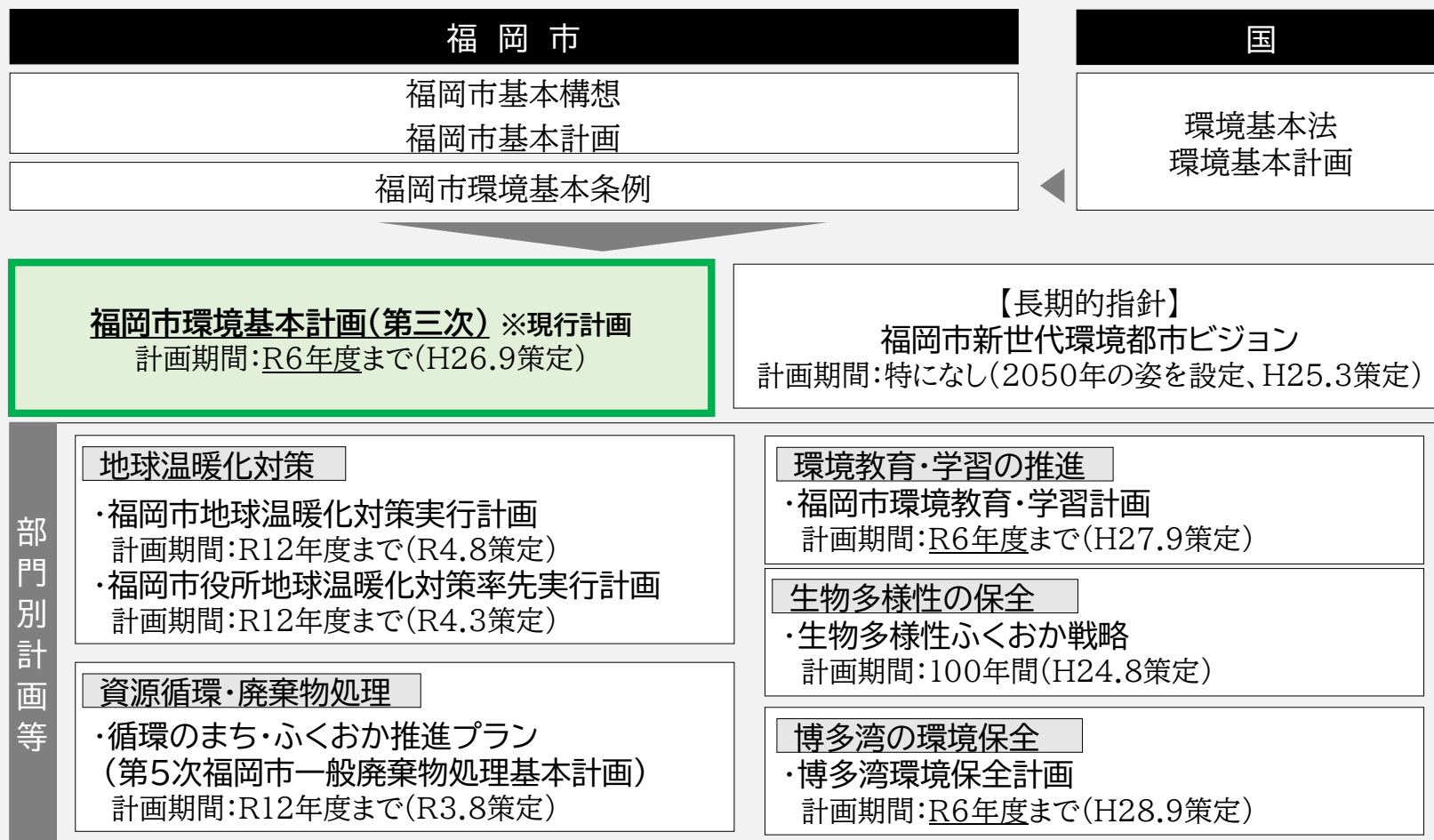
- ✓ 国の動向も踏まえ、計画の効率的・効果的な策定が必要である
- ✓ 本市の環境分野の計画等は数が多く分かりづらい面もあり、現計画の体系を踏まえ、統合が可能な部門別計画等の検証・検討を実施する必要がある

1. 計画改定のポイント(R6.5.20環境審議会資料より)
2. 分野別計画等の統合
3. 計画の構成及び施策体系
4. めざすまちの姿

2. 分野別計画等の統合

現状

<環境基本計画の位置づけ・部門別計画等>



⇒ 環境基本計画の改定を機に、同計画との統合が効果的な部門別計画について検討

2. 分野別計画等の統合

統合対象計画(案) ①

- ✓ 新たな環境基本計画は、長期的展望に立っためざすまちの姿を描き、バックキャストにより、実現に向けた施策の基本的方向性を示すものとした

⇒ 「新世代環境都市ビジョン」は、長期的展望に立った道標を定めるものであり、新たな環境基本計画と方向性が同じため統合が効果的

(参考)福岡市新世代環境都市ビジョン

計画期間：なし（2013年3月策定）

策定趣旨：複雑・多様化する環境問題とこれに関連する社会・経済の情勢も含め、長期的展望(2050年)に立った環境都市づくりの道標を定めるもの

計画体系：

輝く快適環境都市、人と自然とアジアによかまち・ふくおか

誰もが“住みやすい・住み続けたい”と思うまち
アジアのモデルとなる快適環境都市

実現
低炭素社会の

着眼点 1

生物多様性の
保全と利用

着眼点 2

実現
循環型社会の

着眼点 3

環境の保全と
気候変動への適応

着眼点 4

環境を守り、
社会・経済を発展
させる人づくり

着眼点 5

2. 分野別計画等の統合

統合対象計画(案) ②

- ✓ 新たな環境基本計画は、市民や事業者の「行動変容」に重点を置いたものとして

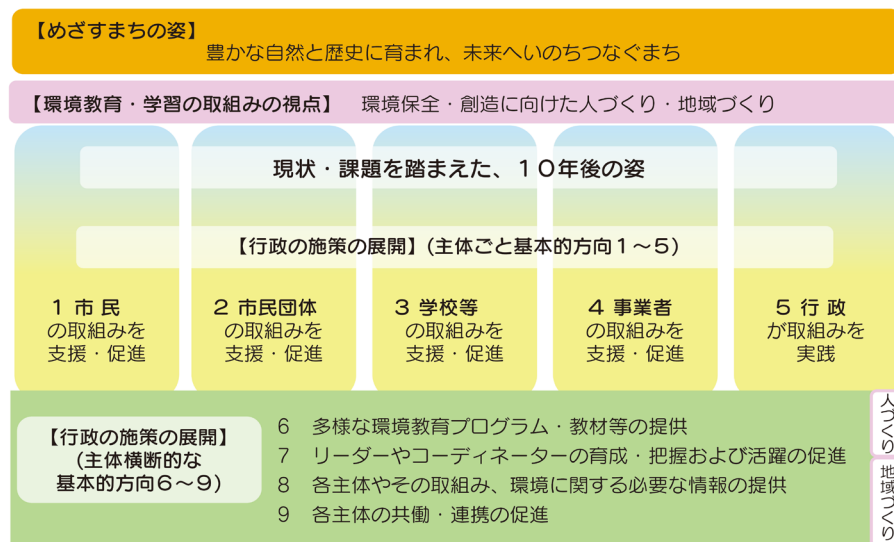
⇒ 「環境教育・学習計画」は、分野横断的かつ施策の基本的方向性を示すもので、かつ行動変容に重点を置く新たな環境基本計画との親和性が高いため統合が効果的

(参考)福岡市環境教育・学習計画(第三次) 概要

計画期間: 2024年度まで (2015年9月策定)

策定趣旨: 社会全体の環境に関する認識の向上を図り、環境の保全及び創造に関する行動への参加を促進するため、主体ごと及び主体横断的な施策の基本的方向性を示すもの

計画体系:

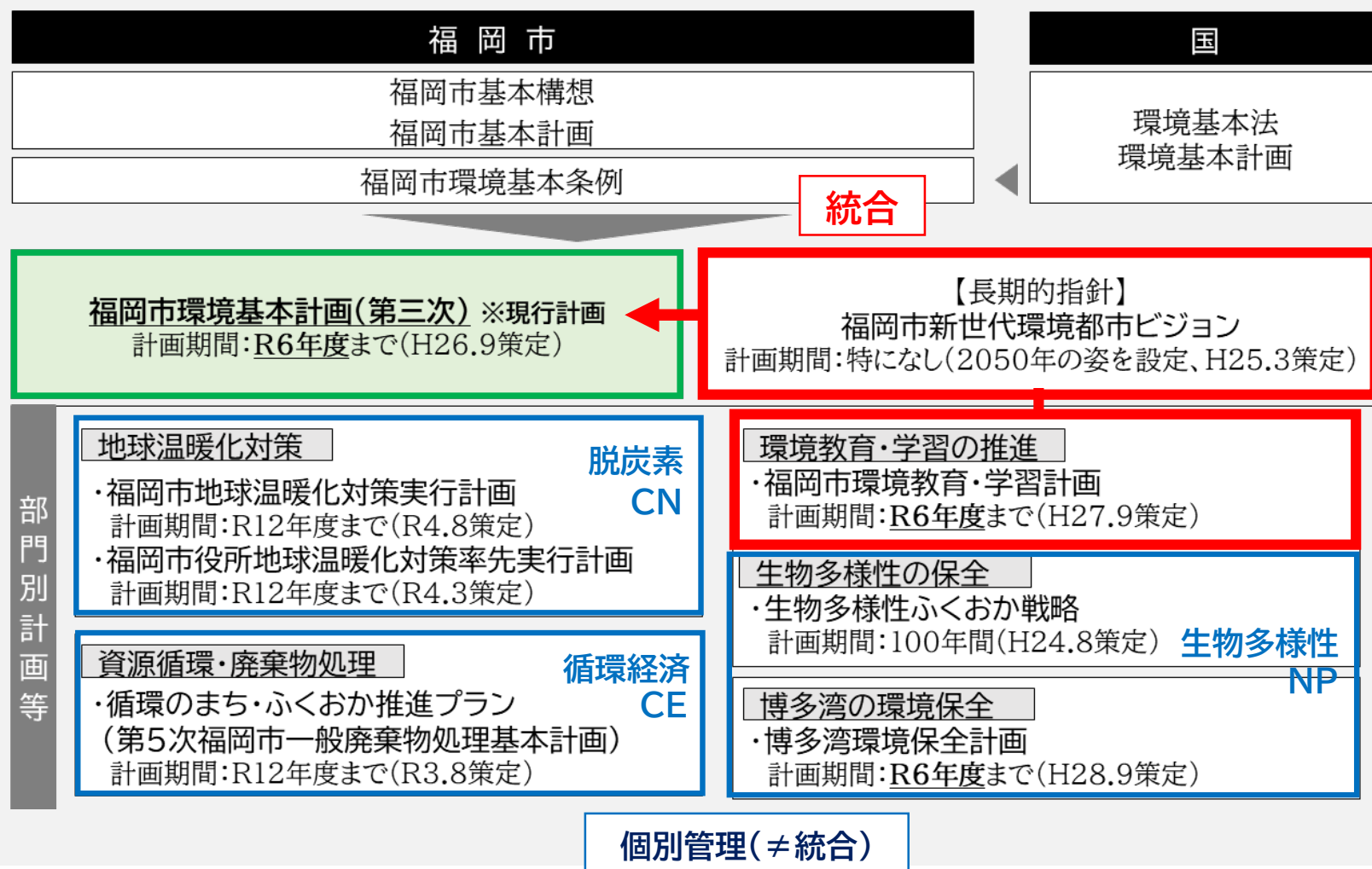


※環境教育・学習計画推進協議会(10/3開催)にて方向性を了承済み。

2. 分野別計画等の統合

統合後の体系

- ✓ ①分野横断的かつ基本的方向性を示す計画は環境基本計画に統合し、
- ②その他の部門別計画は環境基本計画に基づく実行計画として位置づけ、進捗管理を行っていく。



1. 計画改定のポイント(R6.5.20環境審議会資料より)
2. 分野別計画等の統合
3. 計画の構成及び施策体系
4. めざすまちの姿

3. 計画の構成及び施策体系

全体のコンセプト

- ✓ 福岡市の環境分野の総合計画として、目指すべき将来像・取組方針等の大枠を示す。
- ✓ 行政だけでなく、市民・企業の実践の指針となるよう、内容・文章表現・デザインを工夫し、コミュニケーションツールとしても活用

⇒ 章立て等をシンプルにし、より市民に伝わりやすい構成、施策体系とする。

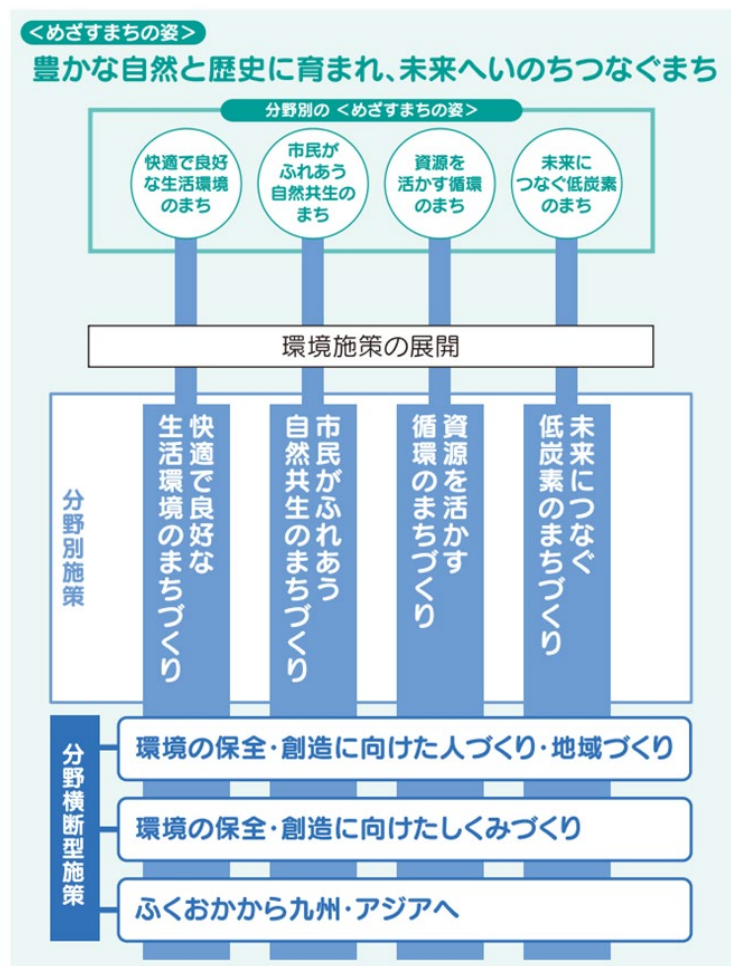
計画の枠組み

	【現】第三次計画	【新】第四次計画(案)
位置づけ	・福岡市環境基本条例第7条に基づく計画 ・市基本計画を環境面から総合的・計画的に推進するための基本指針	左記に加えて、 ・「 <u>新世代環境都市ビジョン</u> 」 ・「 <u>環境教育・学習計画</u> 」 を内包
対象地域	福岡市全域 (地理的・空間的に広がりをもつ環境問題に適切に対応するため、福岡都市圏や九州・アジアなども視野に入れる)	左記に同じ
計画期間	2015年度～2024年度の10年間	<u>2025年度～2034年度の10年間</u> ※第10次福岡市基本計画と同様

3. 計画の構成及び施策体系

構成案

【現】第三次計画



【新】第四次計画(案)

14ページ以降で説明

みんなでめざすまちの姿

〇〇〇〇なまち (※2050年の環境都市像)

～みんなでめざすまちに向けた行動指針～

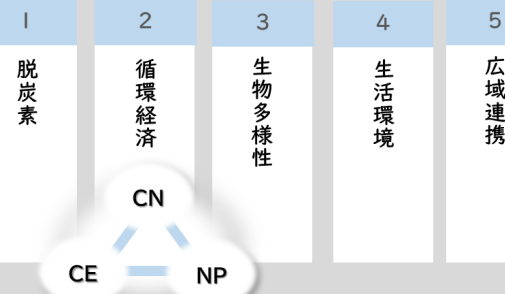
※行動指針の内容はめざすまちの姿のご意見を踏まえ今後検討。

計画の推進

重点施策

- 1 行動変容、環境教育・学習
- 2 事業者連携

基本施策

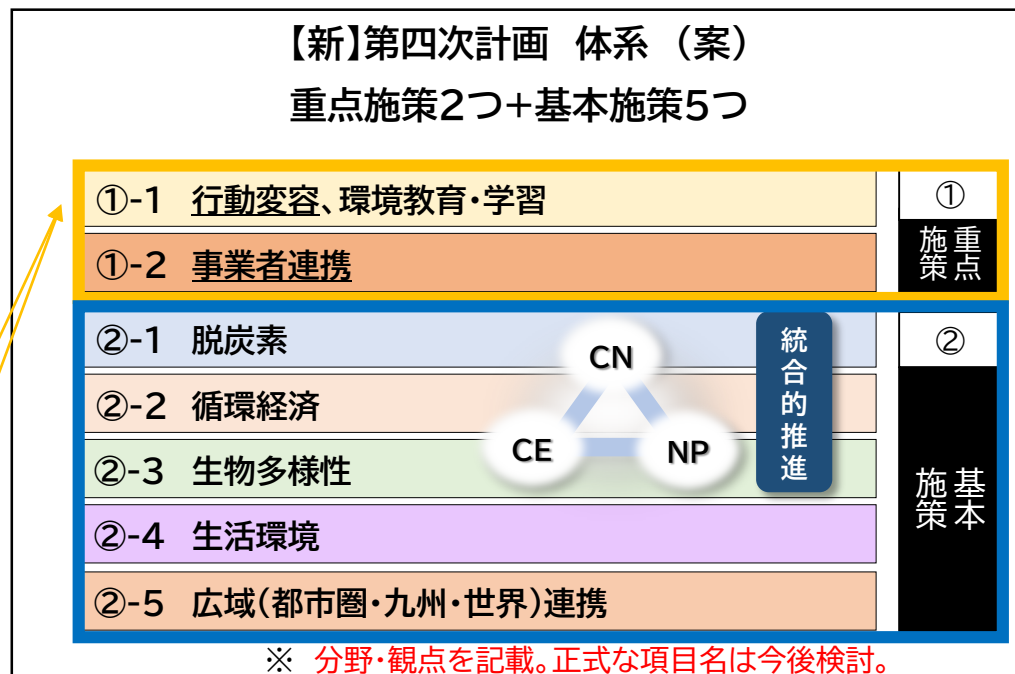
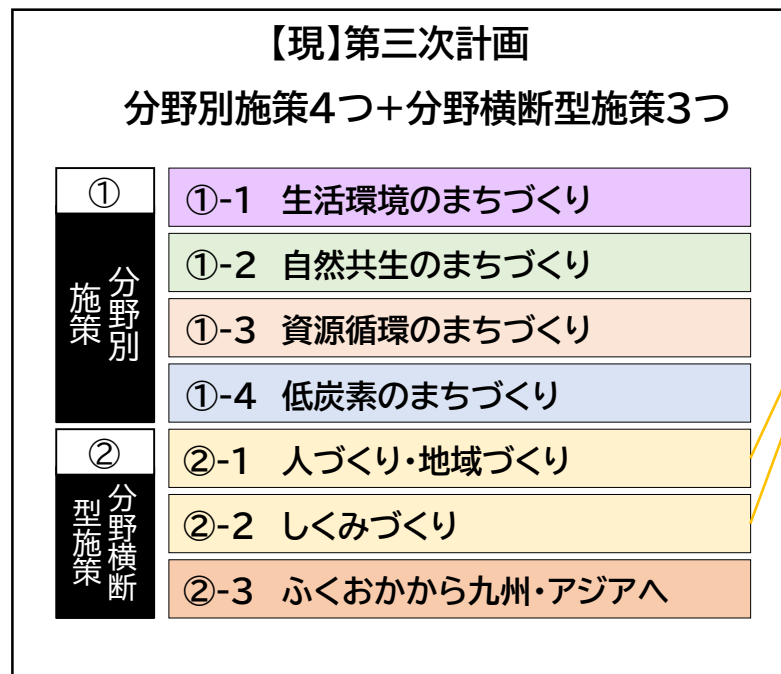


※ 分野・観点を記載。正式な項目名等は今後検討。

※ めざすまちの姿をより鮮明にするとともに、計画の理念を市民等に伝わりやすくするため、実現に向けた行動指針を1～3程度示す。

3. 計画の構成及び施策体系

施策体系



（考え方）

重点施策 … 全ての分野に関わり、重点的に取り組む必要がある施策

基本施策 … 重点施策と連動し、環境課題の柱として着実に取り組む必要がある施策

- ✓ ①-1 環境教育・学習計画の統合も踏まえ、行動変容の施策を筆頭に置き、重要性を強調
- ✓ ①-2 事業者連携の視点を加え、環境経営の実践やイノベーションの実装を促進
- ✓ ②-1～3 脱炭素(CN)、循環経済(CE)、生物多様性(NP)3分野の統合的推進を強調

⇒ 3分野の統合的推進を図るため、他分野との関連性を掲載

3. 計画の構成及び施策体系

計画推進方法

	【現】第三次計画	【新】第四次計画(案)
推進体制	・市民、事業者、行政の連携による推進（地域環境力の向上） ・市役所内推進体制の充実（福岡市環境調整会議など） ・「福岡市環境審議会」への定期報告	左記に同じ
進行管理	・PDCAによる進行管理 ・概ね5年を目途に計画を見直しを進める	・PDCAによる進行管理 ・加速する環境変化に適応した計画であり続けるため、5年を目途に改訂の必要性を判断。 ・各部門別計画で具体的な事業を示し、進捗状況を定量的、定性的に評価（実施計画的位置づけ）

市民意見

	【現】第三次計画	【新】第四次計画(案)
取入れ方	パブリックコメントに加え、 ・素案作成前に市民を対象としたワールドカフェを開催 ・パブコメ開始時に市民・市職員を対象としたワールドカフェを開催	パブリックコメントに加え、 ・市基本計画の「みんなでつくる福岡市の将来計画」において環境分野の意見を幅広い世代から聴取 ・市内大学生を対象として、理想の環境都市や実現に向けたアイデアについて考えるワークショップを開催

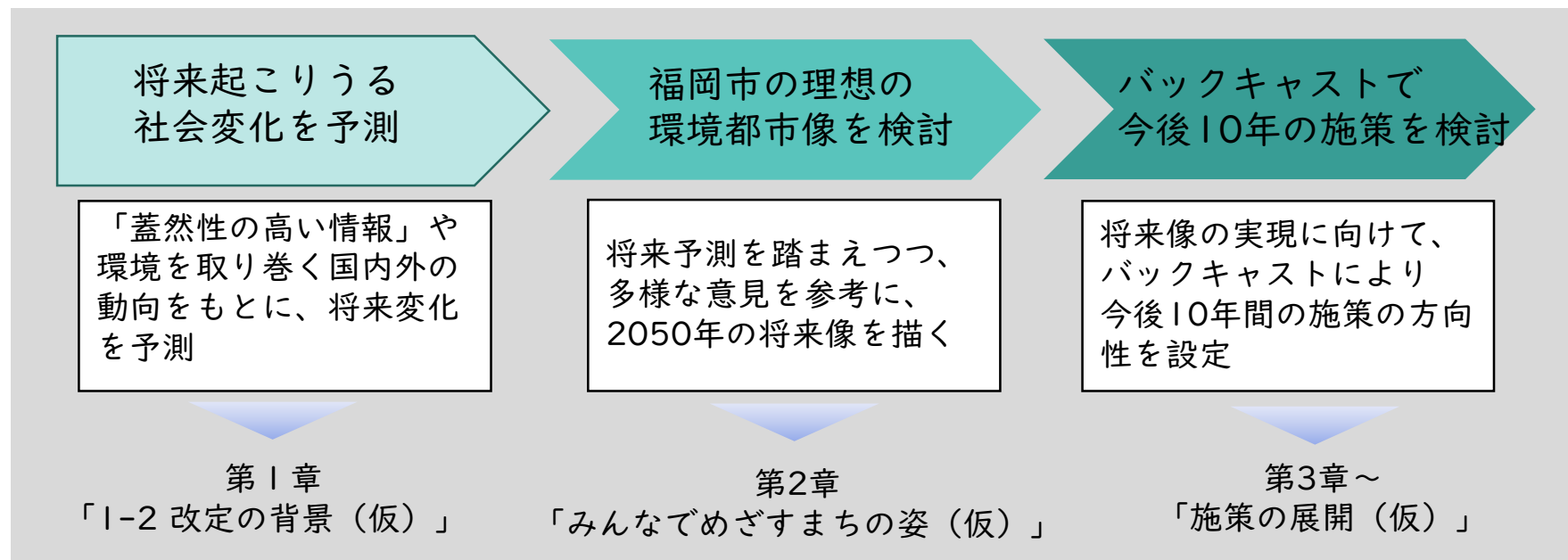
1. 計画改定のポイント(R6.5.20環境審議会資料より)
2. 分野別計画等の統合
3. 計画構成要素ごとの考え方
4. めざすまちの姿

4. めざすまちの姿

将来像

	【現】第三次計画	【新】第四次計画(案)
めざす姿	・環境基本計画がめざすまちの姿を設定 (目標年の考え方なし)	・「新世代環境都市ビジョン」を踏まえ、 <u>2050年の理想の環境都市像を設定</u> ・めざすまちの姿の実現には行政だけでなく、市民、事業者などあらゆる主体の行動・連携が不可欠であることから、 <u>「みんなでめざすまちの姿」としたい</u>

(計画構成イメージ)



4. めざすまちの姿

- 作業部会でのご意見を踏まえ、本日の総会にてめざすまちの姿(環境都市像)を確定させ、めざすまちの姿を踏まえた骨子案作成を進めたいと考えております。

現計画のめざす姿

	第三次計画	新世代環境都市ビジョン
めざす姿	豊かな自然と歴史に育まれ、 未来へのちつなぐまち	輝く快適環境都市、人と自然と アジアによかまち・ふくおか
考え方・ 理念	○市民生活や事業活動などの都市活動に伴い、環境に様々な負荷を及ぼしている。 ○暮らしや文化は先人から受け継いだ豊かな環境がもたらす恵みのもとに成り立っており、<u>将来世代へ引き継ぐ責務</u>がある。 ○この責務を果たすため、<u>あらゆる主体が協力・連携し</u>、環境負荷の低減に努めなければならない。	○市民や来訪者が快適な環境を体感でき、<u>地域の自然や生物の営みが守られた都市</u>を実現する。 ○誰もが“<u>住みやすい・住み続けたい</u>”と思う都市づくりを九州のみならず<u>アジア各都市のモデルとして、情報発信</u>することにより、福岡市の存在感を高める。

(参考) 第一次・第二次計画 : 「ときを超えて人が環境と共に生きるまち」

4. めざすまちの姿

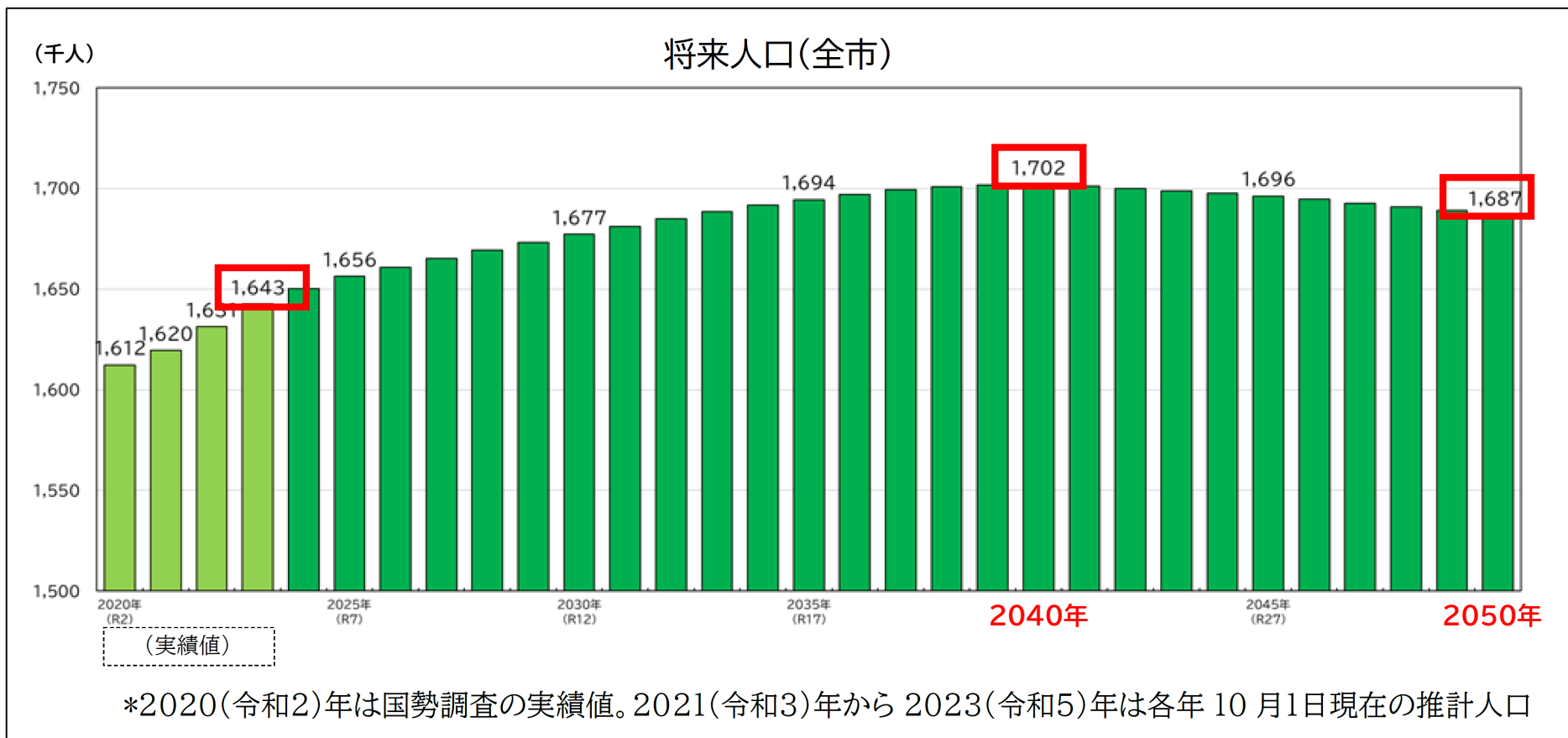
第10次福岡市基本計画 原案 (R6.9)

基本構想 都市像	基本計画 分野別目標		施策
●自律した市民が 支え合い心豊かに 生きる都市 ●自然と共生する 持続可能で生活 の質の高い都市	目標 1	一人ひとりが心豊かに暮らし、 自分らしく輝いている	1-1 多様な市民が輝くユニバーサル都市・福岡の推進 1-2 一人ひとりが健やかで心豊かに暮らせる社会づくり 1-3 すべての人が安心して暮らせる福祉の充実
	目標 2	すべての子ども・若者が夢を描 きながら健やかに成長している	2-1 社会全体で子どもを見守り、子どもを望む人が安心して生み育てられる環境づくり 2-2 困難を抱える子どもや若者を支え、誰もが健やかに成長できる社会づくり 2-3 自ら学び続け、他者を尊重し、協働できる子どもの育成 2-4 将来に夢や希望を抱き、意欲と志を持ってチャレンジする人材の育成
	目標 3	地域の人々がつながり、支え合 い、安全・安心に暮らしている	3-1 つながりと支え合いの基盤となる地域コミュニティの活性化 3-2 生活の利便性が確保された地域のまちづくり 3-3 安全で快適な生活基盤の整備と災害に強いまちづくり 3-4 日常生活における安全・安心の確保と地域福祉の推進
	目標 4	人と自然が共生し、身近に潤い と安らぎが感じられる	4-1 都市と自然が調和したコンパクトで個性豊かなまちづくり 4-2 花や緑などによる潤いや安らぎを感じるまちづくり 4-3 持続可能で未来につながる脱炭素社会の実現 4-4 循環経済の確立に向けた資源循環等の推進
●海に育まれた歴 史と文化の魅力 が人をひきつけ る都市 ●活力と存在感に 満ちたアジアの拠 点都市	目標 5	磨かれた魅力に人々が集い、活 力に満ちている	5-1 観光資源の磨き上げと戦略的なプロモーションの推進 5-2 博多・福岡の歴史・文化を生かした観光振興 5-3 交流がビジネスを生むMICEの受入環境の形成 5-4 人々を魅了するエンターテインメント都市づくり
	目標 6	都市機能が充実し、多くの人や 企業から選ばれている	6-1 都市活力を牽引する都心部の機能強化と魅力向上 6-2 様々な都市機能が集積した魅力・活力創造拠点づくり 6-3 公共交通を主軸とした持続可能な総合交通体系の構築 6-4 成長分野の企業や本社機能の立地の促進
	目標 7	チャレンジ精神と新たな価値の 創造により、地域経済が活性化 している	7-1 地場中小企業の競争力強化などによる地域経済の活性化 7-2 農林水産業とその関連ビジネスの振興 7-3 新たな価値の創造とスタートアップ都市づくり 7-4 産学官民が連携した知識創造型産業などの振興
	目標 8	アジアのモデル都市として世界 とつながり、国際的な存在感が ある	8-1 成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり 8-2 国際的なビジネス交流の促進とグローバル人材にも住みやすいまちづくり 8-3 国際貢献・国際協力の推進と国際会議の誘致

4. めざまちの姿

福岡市将来人口推計

- ✓ 福岡市の総人口は、2040年に約170万人でピークに達し、その後徐々に減少。2050年は約168.7万人の見込み。

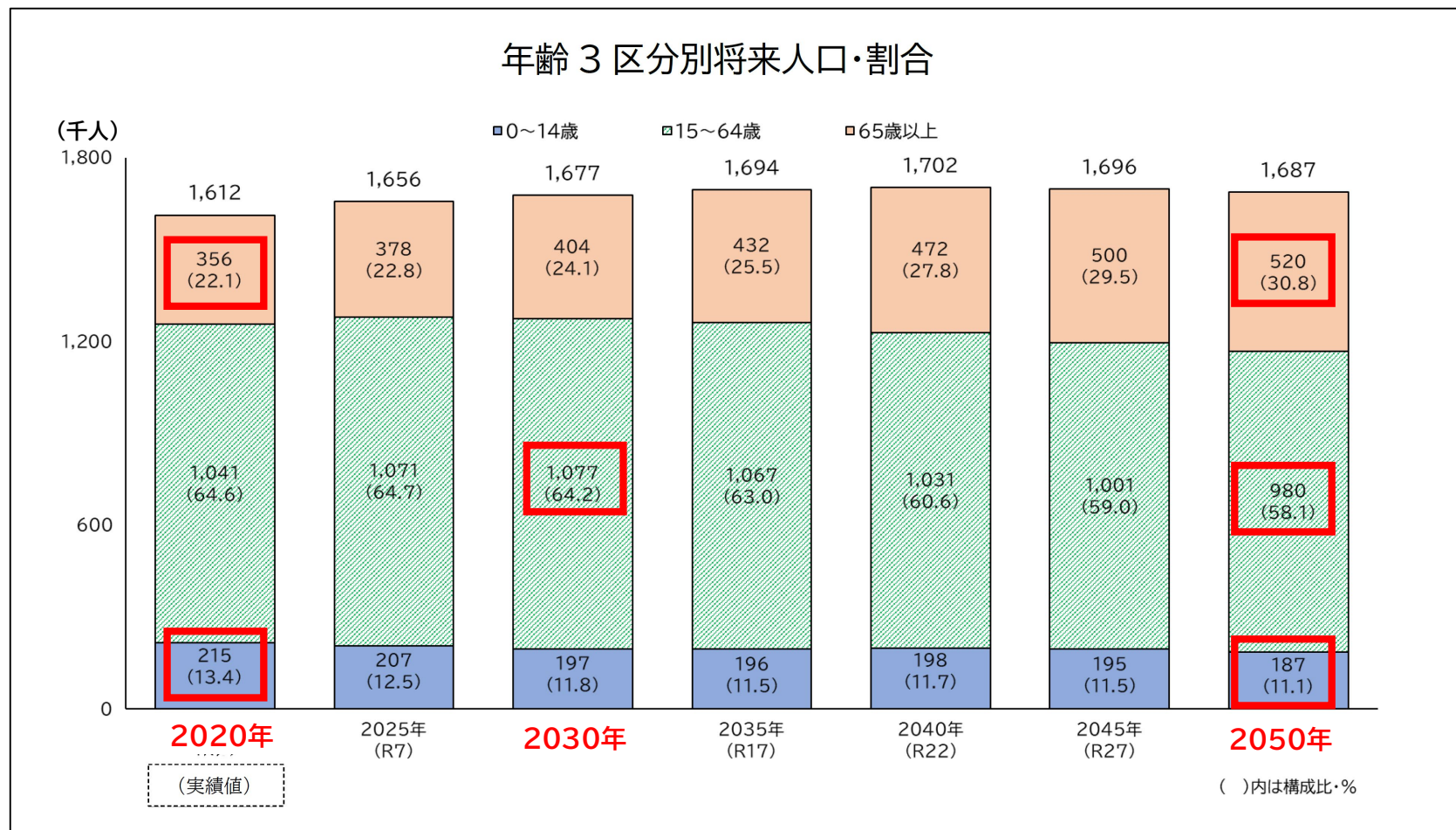


※福岡市の将来人口推計(令和6年4月)より

4. めざまちの姿

福岡市将来人口推計（年齢構造の変化）

- ✓ 少子高齢化が進み、2050年には福岡市の高齢化率が30%を超える見込み。
- ✓ 生産年齢人口は、2030年の107.7万人をピークに減少する見込み。



※福岡市の将来人口推計(令和6年4月)より

4. めざまちの姿

将来(2050年頃)の世界情勢予測

「人口」:2050年に世界人口は約97億人(+約17億)、日本は約1億5百万人(▲0.2億)

「経済」:2050年は中国・米国・インド・インドネシア・ドイツが5大経済大国となる見通しで、アジア(グローバルサウス含む)の台頭が目立つ一方、日本は6位と相対的な地位が低下※2

⇒人口増と経済発展により2050年の世界の食料需要量は2010年比1.7倍に増加※3
そのほか、水、資源等の不足を招き、貧困や経済格差の拡大が懸念されている。

「都市」:世界人口の約70%が都市部に居住(2018年時点で55%)※4
急速な都市化により、大気汚染、交通渋滞、廃棄物管理等の課題が深刻化する恐れ。

「環境」:多くの国でネットゼロの目標年を迎える。
:IPCC第6次統合報告書では、温室効果ガス排出の5つのシナリオを示し、どのシナリオでも2040年までに産業革命前から1.5℃気温が上昇すると試算。

⇒温暖化の進行により、近年頻発する極端な異常気象が、より激甚化・頻発化する恐れ。

※1【世界人口】UNFPA世界人口推計2022 【日本】国立社会保障・人口問題研究所:地域別将来推計人口2023

※2 米Goldman Sachs :グローバル・ペーパー2022

※3 農林水産省:2050年における世界の食料需給見通し2019

※4 UN:世界都市人口予測2018

4. めざすまちの姿

社会情勢の変化等

めざすまちの姿を検討するうえで、近年の環境を取り巻く社会情勢の変化等について整理

環境意識の高まり

- 近年の環境危機の顕在化は、自然資本（環境）の基盤の上に経済社会活動が成立しているとの認識を定着させた。
- 経済活動と環境問題は切り離せない関係となっており、AIやビッグデータ等も活用し、新たな価値の創造につながっている。

環境収容力の限界

- 人間の経済社会活動は環境の復元力を超えており、この均衡の崩れが気候変動や生物多様性の損失等を顕在化させている。
- 環境負荷低減のため、循環型社会の構築や、今ある環境の保全のみならず、回復・創造が必要。

世界情勢の変化

- 今後、地球規模の資源制約や少子高齢化等の社会変動の影響を少なからず受けることが明らか。
- 社会の維持には、人々のライフスタイルの転換、社会インフラ、社会経済システムの改革などが欠かせない。

人と自然との共生

- 健全な自然環境を構築し、気候変動や健康等の社会課題解決の基盤とする視点が注目されている。
- 福岡市は都市機能と豊かな自然が調和しており、この快適な環境に磨きをかけ、生活の質の向上を図ることが重要。

上位計画の考え方

Key Words

「環境価値」

「回復・創造」

「持続可能」

「共生」「Well-being」

4. めざすまちの姿

第四次計画のめざすまちの姿（方向性）

現行計画の**福岡市の特性**を踏まえた**普遍的なまちの姿**を描く理念は変えることなく、**上位計画**や**社会情勢の変化**も踏まえ、**将来のありたい姿**を定めたい



みんなでめざすまちの姿(案)

案1 都市環境と自然が調和した、心豊かに暮らせるアジアのモデル都市

福岡の魅力・強みである都市と自然の調和を保ち、心豊かな暮らし（Well-being）を実現するとともに、古来より関わりの深いアジア諸国へも引き続き貢献していく

案2 環境・経済・社会が好循環した、誰もが住み続けたいまち

心の豊かさを重視した循環・高付加価値の社会を実現し、魅力や活力にあふれ、将来にわたって住み続けたい・住み続けられる質の高いまちを目指していく

案3 未来へのちつなぎ、潤いと安らぎのある快適環境都市

豊かな自然や生命を育み、活かして将来世代へ引き継いでいくとともに、福岡の魅力・強みである「住みやすい」まちで、潤いと安らぎのある暮らし（Well-being）を実現していく

4. めざすまちの姿

参考：将来の環境分野における国内状況予測

◆ 環境技術の進化・社会状況

- ・再エネ技術の高度化
(ペロブスカイト太陽電池の普及等)
 - ・CO₂フリー水素、合成燃料(e-fuel等)商用化
 - ・カーボンリサイクル技術の進展
(CO₂回収・貯蓄・利用等)
 - ・次世代自動車、充電・充てんインフラの導入拡大
 - ・ZEH・ZEBの主流化
 - ・AIによる効率的エネルギー管理の主流化
 - ・AI・ビッグデータ活用によるモニタリングの主流化
 - ・ポスト5G、6G等の高度情報通信社会の実現
 - ・高度なリサイクル技術の実装・普及
 - ・代替素材化(バイオマス・再生材利用等)製品の拡大
 - ・緑の大幅な増加(都市緑化、森林再生)
 - ・生態系の持つ防災・減災機能の活用(Eco-DRR)
- etc.

◆ 人々のライフスタイル、ビジネスモデル

- ・環境配慮行動の更なる実践(省エネ、ごみ減量)
※行動科学やAIに基づく行動
 - ・消費行動の変容
(エシカル消費、カーボンフットプリント考慮等)
 - ・食品ロスの削減
(フードドライブ、フードシェアリングの定着等)
 - ・地産地消への意識の高まりによる生態系保全等
 - ・自然共生への意識の高まり
(緑・生態系豊かな暮らしへの回帰)
 - ・気候変動に適応した暮らし
(熱中症対策等)
 - ・カーシェアリング等のビジネス及び利用の主流化
 - ・社会活動の脱炭素・省資源化
(テレワーク、物流最適化等)
 - ・AI、ロボティクスなどの新技術による省人化・自動化
 - ・GX投資の定着
- etc.